

いつの時代も交通の要

小野小町にちなんだ小町塚、西行が残したとされる墨染桜など、いにしへの歌人伝説があちらこちらに潜む口マンの里。徳川家康の命でつくられた御成街道も、当時の名残りとどめています。はるか遠い昔から、丘山の道を行き交い、歴史をつくってきたのです。時代が流れても、人々はこの地に伝わる歴史や伝統文化を大切に守り続けています。

丘山 OKAYAMA

道路は新しくなり、都心と東金を結ぶ千葉東金道路が開通。山田インターは九十九里地域一帯への玄関口となりました。アクセスの要として地域は発展し、住宅地としての人気も高まっています。そして、まちとゴルフコースを組み合わせた日本初の居住空間「季美の森」も誕生しました。これから先も、ますます便利に変化していくことが期待され、注目される地域です。

貴船神社の御神の神事
(市指定無形文化財)
貴船神社の主祭神「玉依姫命」は、農業・漁業を守る神とされ、農民たちからは雨乞いの神様、漁師たちからは豊漁・水難の神様として信仰されてきました。現在は、拜殿右側にそびえる樹齢約300年の大杉、そして毎年1月4日に行われる御神の神事で有名です。
御神の神事は、慶安4年(1651)から始まったと伝えられています。「おびしや(武射)」により、12本の矢を放つてその年の農作物の豊凶を占う、古式ゆかしい神事です。原始信仰の姿を今に伝える、他に類例を見ない貴重な文化財となっています。



西行伝説と墨染桜(市指定天然記念物)

貴船神社近くの高台に、墨染桜と呼ばれる桜の古木があります。桃紅色の花が次第に紅白色へ変わり、黒くしぼんで落花するといわれています。伝説によれば、文治2年(1186)、西行が奈良東大寺再建の勧進のため諸国を巡り、小野小町や山部赤人ゆかりのこの地へ立ち寄って貴船大明神を安置しました。その時、杖にしてきた山城国京都府深草の墨染桜の枝をさして、「深草の野辺の桜木心あらば またこの里に墨染に咲け」と詠みました。やがて枝から芽がふき、大きく成長して墨染桜になったといわれています。品種は姥彼岸で、紅色の名木は全国的にも希少です。



An important transportation center through the ages

The area features the Sumizome Cherry Tree, which was planted by the poet Saigyō, and the Komachi-zuka mound, which was connected with the poet Ono-no-Komachi. One can also still find vestiges of the Onari Road, which was built during the Edo Period. Long ago, the roads of Okayama were the meeting place of the people and the place where history was made.

The road was renewed in the form of the Chiba-Togane Expressway, which links Togane with central Tokyo. The Yamada Interchange has become the gateway to the Kujukuri area. The area around the access point has grown into a popular residential district. The combination of residential area and golf course has also taken hold here. This area will continue to be a focus of attention.



1 小町塚

Komachi-zuka

かつて六所神社近くに、小野小町にちなんだ「小町塚」がありました。小野小町は平安六歌仙の一人として有名な歌人で、全国各地に小町伝説が伝えられています。当地の小町塚の下には、小町が使っていた機織の道具「オサ」が埋まっているといわれていました。現在は区画整理事業により塚はなくなりましたが、小町公園が記念に造成されています。

2 表谷鞆鼓舞(市指定無形民俗文化財)

Omote-yatsu-katsu-ko Lion Dance

毎年旧暦9月19日(現在は10月中旬)に、六所神社の秋祭りで奉納される三人一組の獅子舞です。演じるのは表谷鞆鼓連(上関田・下関田・池之辺田・新田)。舞には横つとび・道中・四方がかり・夏見などがあり、お囃子にのって早い動きで舞います。鞆鼓とは、雅楽の中の唐楽に用いる打楽器で、昔は鞆鼓をつけて踊ったようですが、今はつけていません。起源は江戸時代後期と思われる、獅子頭をかぶり、お囃子にあわせて各戸を巡り歩き、五穀豊穡などの舞をするものです。



3 天正19年上総国山辺郡山田村御水帳

(市指定有形文化財)

Kazusa-no-kuni Yamabe-gori Yamada-mura Omizuchō, measurement survey of cultivated fields in Yamada Village

農耕地を測量する「検地」は、戦国時代から全国各地で行われました。上総地方では天正19年(1591)に実施されています。山田村御水帳は、山田村の田畑を一筆ごとに実測調査して記載したもので、鈴木家に代々伝えられてきました。当時の農村生活のようすを知る



4 高札四枚(市指定有形文化財)

Four bulletin boards

高札とは、掟や禁制などを板に書いて掲げ、人々に周知させるためのものです。江戸時代の高札4枚が、橋本家に保存されています。内容は、天和2年(1682)3月、切支丹禁止・弾圧に関するもの、享保6年(1721)2月、在所の発砲や御留場での小鳥の捕獲を禁じたもの、明和7年(1770)4月、徒党・強訴・逃散などを禁じたもの、農民に捨馬を禁じたものです。



5 御成街道

Onari Road

御成街道は慶長18年(1613)12月、徳川家康が、東金での鷹狩りのために造らせた道です。東金と船橋を結ぶ約37キロメートルの直線道路で、現在も道路のところどころに「御成街道」という標識が立っています。千葉市内では当時の道筋がほぼ残っていますが、八街から東金にかけては、ゴルフ場や畑ができたため一部道筋が途絶えてしまっ

